



DL DVI Two Fiber Optical Extender



DVI 延長機
型番 : EXT-DVI-FM2500
取扱説明書

■安全上の注意

この度は Gefen 製品をお買いあげいただき、ありがとうございます。機器のセッティングを行う前に、この取扱説明書を十分にお読みください。この説明書には取り扱い上の注意や、購入された製品を最適にお使いいただくための手順が記載されています。長くご愛用いただくため、製品のパッケージと取扱説明書を保存してください。

●注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

●本機を使用中に本体が熱くなりますが、異常ではありません。以下の事項に注意して設置、運用を行ってください。

- ・本機の周りに放熱を妨げる物を置かないでください。
- ・本機に長時間、物が触れないようにしてください。
- ・使用中は長時間、本機を手や皮膚に触れさせないようにしてください。



警告 この表示内容を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

- ・必ず付属の電源アダプター、電源ケーブルを使用してください。これ以外の物を使用すると火災の原因となり大変危険です。また、付属の電源アダプター、電源ケーブルを他の製品で使用しないでください。
- ・AC100V、50Hz/60Hz の電源で使用してください。異なる電源で使用すると火災や感電の原因となります。
- ・分解や改造は行わないでください。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となり危険です。
- ・雷が鳴り出したら、金属部分や電源プラグには触れないでください。感電する恐れがあります。
- ・煙が出る、異臭がする、水や異物が入った、本体や電源ケーブル・プラグが破損した等の異常があるときは、ただちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。



注意 この表示内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

- ・万一、落したり破損が生じた場合は、そのまま使用せず修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災の原因となることがあります。
- ・以下のような場所には設置しないでください。
直射日光の当たる場所 / 極度の低温または高温の場所 / 湿気の多い場所 / ほこりの多い場所 / 振動の多い場所 / 風通しの悪い場所
- ・配線は電源を切ってから行ってください。電源を入れたまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- ・ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- ・廃棄は専門業者に依頼してください。燃やすと化学物質などで健康を損ねたり火災などの原因となります。



修理品発送時のお願い

本製品には、送信機と受信機に同一のシリアルナンバーが割り振られております。万一、不具合が発生し修理の依頼などを行う際には、本体裏面に記載されているシリアルナンバーをご確認いただき、シリアルナンバーを揃えた状態で、

送信機と受信機の両方をご発送いただきますようお願いいたします。



シリアルナンバー表示例

■目次

■安全上のご注意	2
■目次.....	3
■はじめに	
■主な特長	
■運用上のご注意	
●光ケーブルの形式と伝送距離	
■梱包内容の確認	
■各部の名称と機能	4
●送信機	
●受信機	
■機器の設置	5
■EDIDプログラミング方法	
■仕様.....	6

■はじめに

この度は Gefen、EXT-DVI-FM2500 をご購入いただき、まことにありがとうございます。ご使用前に、この取扱説明書を最後までお読みいただき、使用方法をご理解の上、正しく使用してください。

■主な特長

EXT-DVI-FM2500 はマルチモード (50/125 μ m) の光ケーブル (LC コネクタ、2 芯) でデュアルリンク DVI ソースを最大 1000 m 延長する Dual Link DVI 延長機です。最大 3840 × 2400 (WQXGA) の解像度に対応。銅線を主体とする延長機に比べ、直流的な絶縁を施して電磁干渉を受けにくい光信号伝送を行います。さらにバーチャル EDID 機能を搭載して EDID 情報を記録できるため、ソース機器と表示機器の迅速な接続と柔軟な互換性を獲得しています。

- ・マルチモード (50/125 μ m) の光ケーブル (LC コネクタ、2 芯) を使用
- ・最大 3840 × 2400 (dual-link DVI) の解像度に対応
- ・電磁誘導ノイズの影響を受けない光ファイバー伝送
- ・EDID プログラムを記録可能
- ・筐体には金属製ダイキャストを採用し、コンパクトながら高い耐久性を獲得
- ・DVI モニターの DDWG 規格に準拠

■運用上のご注意

- ※光ケーブル端子が露出している場合、細粉によるピクセル落ちを起こしやすいため、取扱いには十分に注意してください。
- ※本機は全ての DVI 表示機器に対応し、最大 3840 × 2400 の解像度をサポートします。
- ※ソース機器の DVI 端子から正常に電源が供給されている場合、送信機に付属の電源アダプターを使用する必要はありません。

●光ケーブルの形式と伝送距離

マルチモード (50/125 μ m) の光ケーブル (LC コネクタ、2 芯) を使用し、光ケーブルの種類によって、伝送距離が異なります。

ケーブルタイプ	延長距離
2 芯 OM3 マルチモード光ケーブル	最大 1000m
2 芯 OM2 マルチモード光ケーブル	最大 500m
2 芯 OM1 マルチモード光ケーブル	最大 300m

■梱包内容の確認

- ・本体 (送信機と受信機)
- ・DC 5V 電源アダプター × 2
- ・クイックスタートガイド

万が一足りないものがありましたら、購入された販売店までご連絡ください。

■各部の名称と機能

●送信機



① Power インジケータ

送信機に電源が供給されると青色に点灯します。

② Status インジケータ

EDID プログラミング中に青色に点滅します。詳しくは 5 ページを参照してください。

③電源端子

付属の電源アダプターを接続します。

※ DVI 端子 (14 ピン) から正常に電源供給されている場合、送信機に電源アダプターを接続する必要はありません。送信機に電源供給が必要な場合 (Power インジケータが点滅)、付属の電源アダプターを送信機に接続してください。

④ LC 光ファイバー端子

LC 端子を搭載した 2 芯のマルチモード光ケーブルを使用し、受信機と接続します。OM1、OM2 マルチモード光ケーブルも使用可能です。詳しくは 3 ページを参照してください。

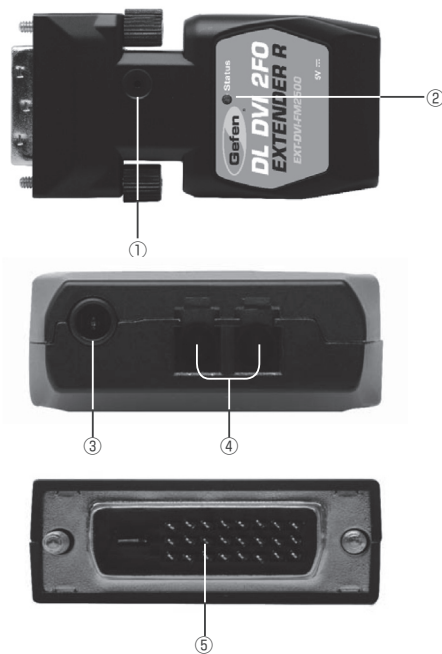
⑤ EDID プログラミングスイッチ

機能について、詳しくは 5 ページをご参照ください。

⑥ DVI 入力端子

ソース機の DVI 出力を接続します。

●受信機



① Power インジケータ

受信機に電源が供給されると青色に点灯します。

② Status インジケータ

EDID プログラミング中に青色に点滅します。詳しくは 5 ページを参照してください。

③電源端子

付属の電源アダプターを接続します。

④ LC 光ファイバー端子

LC 端子を搭載した 2 芯のマルチモード光ケーブルを使用し、送信機と接続します。OM1、OM2 マルチモード光ケーブルも使用可能です。詳しくは 3 ページを参照してください。

⑤ DVI 出力端子

表示機器の DVI 入力を接続します。

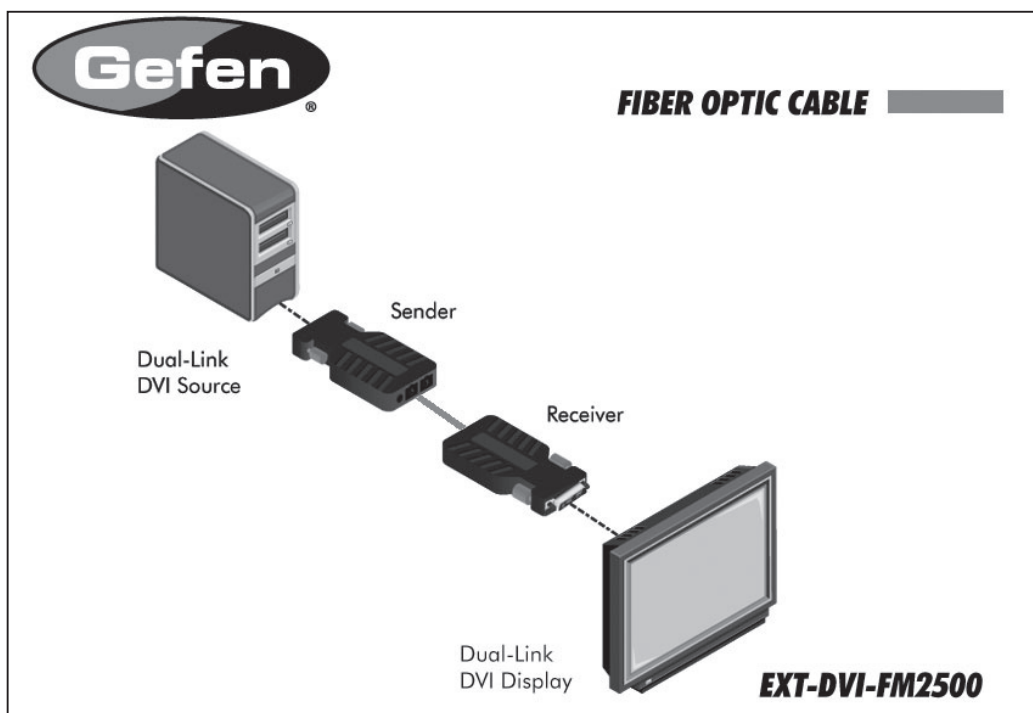
■機器の設置

※ EDID プログラミングが必要な場合、以下の「EDID プログラミング方法」に進んでください。DVI ソース機器に EDID 情報が必要な場合、EDID プログラミングは必要ありません。

- ① DVI に対応したソース機器を送信機に接続します。
- ② DVI に対応した表示機器を受信機に接続します。
- ③ LC 端子を搭載した 2 芯マルチモード光ケーブルを使用して、送受信機を接続します。
- ④ 付属の電源アダプターを受信機に接続します。

※ DVI 端子(14ピン)から正常に電源供給されている場合、送信機に電源アダプターを接続する必要はありません。送信機に電源供給が必要な場合(Power インジケーターが点滅)、付属の電源アダプターを送信機に接続してください。

■接続例



■ EDID プログラミング方法

表示機器が 2560 × 1600 (WQXGA) に対応しない場合に EDID プログラミングを行ってください。DVI ソース機器に EDID 情報が必要な場合、EDID プログラミングは必要ありません。

※本機は工場出荷時に 2560 × 1600 の EDID 情報を内蔵しています。送信機の EDID 情報を他の EDID 情報に書き換えると、初期設定の EDID は消えてしまい、戻すことはできません。

- ① DVI に対応した表示機器の電源を入れます。
- ② 送信機の電源端子に付属の電源アダプターを接続します。Status インジケーターが青く点灯していることを確認してください。



- ③ 送信機の EDID スイッチを細い針金のようなもので長押しすると、Status インジケーターが青く点滅します。



- ④ 送信機を表示機器に接続します (ソース機器ではなく、EDID を記録する側の機器)。
- ⑤ 送信機の Status インジケーターが素早く点滅します。点滅中、表示機器の EDID を読み込み、送信機に記録しています。約 7 ~ 8 秒後、プログラミングが完了すると Status インジケーターの点滅が終わります。
- ⑥ 表示機器を送信機から外します。
- ⑦ 電源アダプターを送信機から外します。
- ⑧ 送信機をソース機器に、受信機を表示機器に接続します。LC 端子を搭載したマルチモード 2 芯光ケーブルで送信機と受信機を接続します。

■仕様

最大ピクセルクロック	165 MHz × 2
映像入力端子 (送信機)	DVI-D 24 ピン、オス × 1
映像出力端子 (受信機)	(1) DVI-D 24 ピン、オス × 1
光端子 (送受信機)	LC タイプ × 2
電源 (送受信機)	DC5V、1A
消費電力	最大 15W(受信機)
寸法・質量	W39 × H15 × D72mm、500g(送受信機とも)

- この製品を安全にお使いいただくために、設置・運用には十分な安全対策を行ってください。
- この取扱説明書に記載されている商品名、会社名等は各社の登録商標または商標です。



ヒビノインターサウンド株式会社

〒108-0075 東京都港区港南3-5-12 TEL: 03-5783-3880 FAX: 03-5783-3881
E-mail: info@hibino-intersound.co.jp <http://www.hibino-intersound.co.jp/>